

## 日本発ドイツ便り : Thurn und Taxis

Regensburg で一度行ってみたいと思いながら機会のなかったところに行ってきました。

Thurn und Taxis Schloss<sup>1</sup> (トゥルン・ウント・タクシス宮殿、もしくは Schloss St. Emmeram : エメラム宮殿とも呼ばれます)。Thurn und Taxis 侯爵家というのは 15 世紀から 19 世紀にかけて、ヨーロッパの郵便事業で財を成した一族。もともとフランクフルトに拠点がありましたが (フランクフルトにも今でもお城が残っています) 帝国議会の皇帝代理に選ばれたのを機に、レーゲンスブルクに拠点を移し、作ったのがこのお城。オーストリアのハプスブルク家ともつながりがあって、皇妃エリザベートのお姉さんヘレーネの嫁ぎ先がこの一家なのです。(エリザベートもこのお城を訪ねたことがあるそうなの)



お城がたくさんあるドイツでも珍しく、ここは今でもこの一族がちゃんと住んでいるお城です。

駅を出て少し街に向かって歩くと、もうすぐそこには宮殿の庭園が広がっています。時々見かける標識に沿って歩いていきます。

なんせ広いので、延々と歩きます。いったいどこまで歩くんだろう? と思い始めたころにやっとまずは教会堂に到着。そこからまた少し歩くとお城への入り口に到着します。

このお城の庭園では、夏には音楽祭、冬にはクリスマス市が開かれます。



ここが入り口。ただ問題が一つ。お城の中にはガイドツアーでしか入れません。今回は、ガイドツアー (90 分程度) の開始時間が合わず今回は断念。(涙) 右はちょっと中を覗いてみた感じ。☺ (このお城までしっかり見学しようと思ったら、時間の制約がある日帰りでは難しいです。できれば Regensburg で一泊したいところです。) なんでもこのお城、英国のバッキンガム宮殿より広いのだそうですよ。ちなみにこのお城、池田理代子作の『オルフェウスの窓』という漫画の舞台にもなっています。

<sup>1</sup> <http://www.thurnundtaxis.de/> 城主の Gloria 侯爵夫人のメッセージも聞けます。☺



でもせっかくここまで来たので、Schatzkammer（宝物館）を見ていくことに。中は残念ながら写真撮影禁止です。

宝石や調度品、陶磁器など溜息ものの宝物がたくさんありました。なかでも、ここの博物館のすごいのが、馬車や馬具のコレクション！（ドイツで一番の規模だそうです）体育館くらいの広さのフロアに各年代の馬車（普通の移動用から、祝祭・パレード用まで）がずらりと並んでいて、なかなかの壮観でした。こういう馬車って、乗る人や用途によって作られるので、一つとして同じものはないんだそうです。すごいですよね。

ここの博物館の係の人は、なんだかものすごい親切でした。音声ガイドは貸してくれるし、荷物は預かってくれるし、素朴な質問にも喜んで答えてくれるし、Regensburgのほかの名所なんかも教えてくれるし、えらい歓迎ぶりでした。（なんだか家族経営の小さなホテルに泊まったみたいなお感じ。☺）

博物館を出て、ちょっとその辺を散歩。  
開放されているかは分かりませんが、広大な庭園には、大きな木がたくさんあって森みたいです。  
散歩したら気持ちよさそう。取り囲むフェンスにはところどころ紋章が。上にはちゃんと王冠が載っています。



St. Emmeram（聖エメラム教会）も煌びやかで素晴らしかったです！  
次回は、Thurn und Taxis 城の中の、ある場所へ！（つづく）